

坊

ぼう

やすなが



「美しい日本の心」

坊 やすなが プロフィール【略歴】

昭和42年北区八多町生まれ 八多保育園卒園後
地元幼、小、中、県立神戸北高校を卒業

平成元年 佛教大学文学部卒業
同 年 衆議院議員 砂田重民 秘書
平成11年 自民党兵庫県連 青年部長
平成12年 衆議院議員 公設第一秘書
平成15年 神戸市議員に初当選(現4期)
市会常任委員長、特別委員長等を経て
平成24年 自由民主党神戸市議員団 幹事長
平成25年 神戸市監査委員 議選委員
自民党政令指定都市青年議員連盟 会長
平成27年 市会運営委員会 委員長
平成28年 神戸市会 副議長
現 在 観光交流都市推進神戸市議員連盟 会長
自民党神戸市支部連合会 選挙対策委員長

北区人口減少について

西鈴蘭台駅の再開発
へも頑張ってます!

Q 坊やすなが議員 6月定例会市会 住宅都市局
平成30年6月25日

鈴蘭台・西鈴蘭台・北鈴蘭台駅周辺の建築物の高さ制限や
容積率の緩和等を図り、利便性の高いまちづくりを!



神戸市全体では約3000人、北区本区では、約1000人の
人口が減少している。その原因として、坂の多い鈴蘭台では高齢
者には住みづらく、利便性の高い市街地へ移り住む市民が多いの
ではないか。

人口流出を抑制し、移住・定住を促進するためには、建築物の
高さ制限や容積率の緩和等を図りながら、駅前にマンション等の
住宅や公共施設、商業施設等の機能を集め、シニア世代には利便
性が良い駅周辺へ、そして若者・子育て世代には、ニュータウン
などの空いた住宅を最先端の技術やサービスを取り入れ住みたい
と思える住環境に整えるなど、年齢構成のバランスのとれた街
をつくっていくことが重要であると考えているが、見解を伺いたい。

A 岡口副市長

拠点性を高めるまちづくりのために、例えば都市計画
も含めた幅広い手法を用いて検討していきたい。

人口減少社会におけるまちづくりでは、駅周辺の拠点性を高
めていくことが一番重要であります。鈴蘭台等では既に再開発
を進めているが、今後も拠点性を高めるまちづくりのために、
例えば都市計画も含めた幅広い手法を用いて検討していきたい
と考えている。

海洋産業の発展について

新産業の育成に向け
頑張ってます!

Q 坊やすなが議員 6月定例会市会 企画調整局
平成30年6月25日

海洋産業を新たな産業として推進していくに
あたり具体的にどう進めていこうとしているのか。



世界トップクラスの海洋産業先進地域である英国アバディーン
市を久元市長、神戸大学、川崎重工をはじめとした市内3企業と
共に訪問致しました。

同市との間で海洋産業の振興・人材育成についての連携や、
水素・再生エネルギーに関する知見の共有等に係る意思確認書
を締結したところではありますが、今後どのように具体的にどう
進めていこうとしているのか、見解を伺い致します。

容器包装プラスチックについて

効率的なリサイクル
政策を進めます!

Q 坊やすなが議員 決算特別委員会 環境局
平成30年10月2日

コスト高のプラスチックの収集をやめて、ごみ発電の
燃料として使用すれば、逆に収入が増えるのでは。



容器包装プラスチックは市民の方々が分別し、それを環境局が
取りに行き、3箇所の中継地に委託民間業者が取りに来て、リサイ
クルを行っている。しかし、このプラスチックの約2割はリサイク
ルされているが、あとはアンモニアとなったり、燃料として燃やさ
れている。

この政策コストには、結局10億円ぐらいは掛かっていると思
うが、最終的には燃やしてしまうと考えると効率的な政策ではない。

神戸市のごみ処理場は、ごみ発電機能が備わっているため、
容器包装プラスチックの分別をやめて、一般ごみとプラスチック
を燃料として燃やして発電し、電力を売電すれば、逆に収入が増
えるのではないかとと思うが、その点についてどう思うか。

A 環境局局长

入収集運搬も含めて、多くの
経費がかかっている。

容器包装プラスチックは容器包装リサ
イクル法に基づき行っている。ご指摘の
とおり、収集運搬も含めてリサイクルす
るために、多くの経費が掛かっている。今後
判断をしていく必要があると思っている。



A 久元市長

様々な分野でどういう様な方向を目指していくのか
具体的に施策をどう展開するのか考えていきたい。

海洋産業は、造船や海洋構築物、水中
ロボットなどのものづくりの分野、石油・
天然ガス、鉱物・レアメタルなどの海底
資源分野、洋上風力発電や潮流発電など
海洋由来のエネルギー開発、さらには
水素の利活用分野など、様々な分野で
どういう様な方向を目指していくのか、
具体的に施策をどう展開するのか考えて
進めて参りたい。



水道局の経営改善について

低コスト化へ向け民間活力導入を進めて参ります!

Q 坊やすなが議員 決算特別委員会 水道局
平成30年10月1日

多額な管路の更新には、民間事業者を指導し低コストにする努力が必要だと思ふが。

高度経済成長期に、水道管だけではなく、様々なインフラが急激に整備され、その更新時期を迎えている。インフラの更新には多額の費用が必要となることから、少しでも費用を抑えることが1つの大きな課題と考える。

神戸市は起業家を自然と生み出す仕組みを構築することを目指し、ITを活用した成長型起業家(スタートアップ)の支援を行っている。IT化が進む中で、派生した様々な技術等が多く生まれている。水道業界は小さいが、そこが主体となった技術革新以外のアイデアも取り入れていく必要があり、取り入れられるものがあると思う。そこで、民間事業者を指導しながらより低コストにする努力が必要だと思ふが、見解を伺いたい。

また、多額な管路の更新にあたっては、工事の数が増えないと更新が進まないのは当然だが、職員は増えるのであれば、極力増やさないことが大切であると思ふが、見解を伺いたい。

A 水道局局長

地元企業の技術力向上を図り、参入できる企業を増やす努力をしている。

水道管路は、地中に埋設されており、実際に掘削してみないと現状把握が難しく、整備や更新に関するリスクを民間事業者に負担してもらうことがなかなか難しい。

しかし、民間事業者との関係では、平成27年度から神戸市建設協力会や神戸市測量設計協力会と連携して設計講習会、配管講習会等を開催する等、地元企業の技術力向上を図り、参入できる企業を増やす努力をしている。

一方、IT関係等の取り組みも注視していかなければならないと思っており、最新の知見を入手しながら官民連携を進めて参りたい。

現計画では、平成31年度に年間40kmの配水管更新を予定している。その中で設計業務は、平成26年度までは全て直営で行っていたが、平成27年度からは全て地元を中心としたコンサル会社に発注し、工事量が増加しても職員を増やすことなく、対応できるように計画して進めている。

スタートアップ支援施策の現状と今後の展開

スピード感を持って進め参ります!

Q 坊やすなが議員 6月定例会 企画調整局
平成30年6月25日

神戸経済の持続的な成長には、成長型起業家の集積と既存産業との融合が重要である。

今後の神戸経済の持続的な成長を目指していくためには、成長型起業家を集積し、都市を成長させていくとともに、既存産業との融合を図っていくことが重要であると考えます。

神戸市ではこれまで、シリコンバレーを拠点に世界50カ国1500社以上を支援するシード投資ファンド「500 Startups」をはじめ様々な起業家育成支援事業を講じていますが、全国の自治体で起業家支援が行われるなかで、神戸市が更に存在感を増すためには、効果的な施策を、スピード感を持って更に積極的に展開していく必要があります。これまでの成果、及びそれを踏まえた上での今後の展開について伺いたします。

六甲山・摩耶山の活性化について

神戸ビーフを観光の目玉として政策を進めて参ります!

Q 坊やすなが議員 9月定例会 総括質疑
平成30年10月12日

神戸ビーフ館を六甲山牧場に誘致し知名度、集客能力のある「道の駅」整備を

ビザの緩和によって一気にインバウンド(訪日外国人旅行)客が増えた。世界的コンテンツである神戸ビーフを前面に出していくことが、神戸にとって非常に重要だと思っている。

兵庫県が本格的にオープンを予定している神戸ビーフ館を六甲山牧場に誘致し、さらに国内知名度、集客能力のある「道の駅」を組み合わせ整備して頂きたいと思っている。また、六甲山牧場を有効活用し、観光客が牛自体を見れる場所づくりや、但馬牛の供給を増やすために繁殖等を神戸市がやっていく事が重要だと思っているが、見解を伺いたい。

また、社会実験として、都心からまやビューライン及び六甲ケーブルを繋ぐ急行バスを運行しているが、広報不十分であり、また観光客にバスの乗り場が非常に分かりにくいとの事である。六甲山・摩耶山へのアクセス改善は極めて重要であると思ふが。

A 岡口副市長

今後、神戸ビーフ館の誘致など、「道の駅」整備の可能性を探っていきたい。

「神戸ビーフ館」は、県が2023年度を目処に候補地選定を進めていると聞いています。六甲山観光の活性化は、市・県にとっても大変重要な課題であり、その一翼を担う六甲山牧場の魅力アップや集客といった観点からも、引き続き県に働きかけていきたい。また、「道の駅」としての整備というご提案については、六甲山牧場の活性化や魅力アップ、知名度向上に確かにつながると認識している。今後、神戸ビーフ館の誘致など、どのように集客力を高めていくかの検討を進め、「道の駅」整備の可能性を探っていきたい。

但馬牛の繁殖機能強化は、技術や人材育成などの課題もあるが、市として前向きに取り組むと考えている。

アクセス案内については、徹底した広報PRの戦略を展開していきたいと考えている。



坊議員

A 玉田副市長

従来からの取り組みを通し、神戸におけるスタートアップエコシステム形成を加速させていきたい。

神戸市では、若者が挑戦でき、輝けるまち、そして選ばれるまちとなるよう、起業家の成長支援を中心に、企業・大学・投資家・金融機関などが有機的に繋がるエコシステムづくりを行っております。

500 Startups と連携したプログラムは引き続き実施予定であり、特に議員の補助力により、チャットワーク社が谷上に進出したり、さらに大手IT企業が新たに開発拠点を設置するなど、兵庫県との連携事業として、スタートアップ企業の立地を促す補助に加え、地元企業や起業家、大学・研究機関などがイノベーションを創出する拠点に対しての補助制度を創設しております。

従来からの医療産業やヘルスケア分野等でのスタートアップ・ベンチャー支援も進め、神戸におけるスタートアップエコシステム形成を加速させていきたいと考えております。



お問い合わせ・あらゆるご相談は
神戸市議員

坊やすなが まで

〒651-1301 神戸市北区藤原台北町2-11-6

TEL 078-983-1711 FAX 078-983-1719

E-mail yasunaga.bo@gmail.com